

**兵庫支部 NEWS H22年 3月号**

北九州市立大学同窓会兵庫支部 編集発行人 名越英昭(Tel.078-792-6130)

ホームページ http://www.hi-net.zaq.ne.jp/kono メール hn75kb@ybb.ne.jp

購読料 12回、1,500円(送料込)

購読のお申し込みは郵便振替

振替口座:00980-2-245822

口座名:北九州市立大学同窓会兵庫支部

第32回三金ゴルフ日程決定**十二年ぶり、関西支部と合同開催**

春の三金ゴルフは、12年ぶりに関西支部との合同開催で実施されることとなった。

記録によると、平成10年4月三木よかわカントリークラブで開催されたのが、最初で最後の合同開催でその後両者の間で行き違いがあり、再開されることはなかった。この程両者の関係修復がなり、12年ぶりに合同開催に漕ぎ着けたものである。

関係者の御努力に敬意を表し、囲碁交流会と同様に両支部間の親睦を深める定例会となることを願う。

開催要領は下記の通り。

記

開催日時:平成22年4月21日(水)

スタート時間:9時40分オールドコース

開催場所:ロータリーゴルフ倶楽部

神戸市北区淡河町南僧尾1679-1

Tel.078-959-0088 Fax.078-959-0077

料金:10,500円セルフ

昼食+1ドリンク

会費:3,000円

表彰会食として

予定人数:7組、28名

競技方式:ダブルレリア

申込締切:4月7日

申込先:松山 仁

兵庫支部幹事

携帯:090-3286-2979

自宅:078-791-3327 会社:078-232-1877

**春の囲碁交流会開催予定**

関西支部囲碁同好会(会長都留猛、32米英)と兵庫支部囲碁の会(会長平間正昭、37商)との交流会は、今春で第14回目となり、下記の通り開催される。

開催日時:平成22年4月4日(日)午後1時~

開催場所:本館牡丹園3F(三金会定例会場)

会費:3,500円(懇親会用)

対局中の飲食は実費負担(1杯500円)

連絡先:平間正昭、携帯090-7870-9445

兵庫支部月例会2月「三金会」

出席者:上の写真左から、山本信司(37米英) 高尾巖(36商) 中村明人(41商) 名越英昭(37米英) 大村実良(33商) 二宮慶治郎(38米英) 平間正昭(37商) 安徳信義(44商)

1月に亡くなられた故吉本富雄氏に対する香典を、葬儀場では受け取られなかった為、大村支部長と名越の両名が御自宅に伺いお供えしてきたことが報告され故人の思い出話が続き、これまでの物故者森下綏夫氏(37商) 楠本正孝氏(40米英) 銭谷勘一郎氏(39米英)等に想いを馳せる。

1月三金会で話題となった「大鳥圭介生誕地を訪ねるハイク」に参加することになり、その場で赤松初夫氏に電話し、その詳細を二宮事務局長に連絡を依頼し別項の通り3人が参加した。

支部総会開催要領については、3月三金会で協議することになった。

平成22年度第1回兵庫支部役員会予定

5月2日(日)13時半、於兵庫勤労市民センター

平成22年度兵庫支部総会・懇親会の開催について協議するため、役員会が5月2日(日)午後1時半から兵庫勤労市民センター

(Tel.078-576-0981)

で開催される。

21年度収支報告書の承認、役員改選期に伴う役員人事等が主要議題である。

会場はJR兵庫駅北側1分(歩道橋から直通)

**平成22年度 同窓会本部諸会議日程**

同窓会本部から平成22年度の諸会議の日程の連絡がありましたので、下記の通り、お知らせ致します。

1. 会長選考委員会 4月24日(土)14:00~15:00
於ステーションホテル小倉
2. 第1回評議会 5月22日(土)15:00~17:00
於ホテルニュータガワ
3. 第2回評議会 10月23日(土)14:00~16:00
於リーガロイヤルホテル小倉
4. 第60回総会 10月24日(日)11:00~12:00
於リーガロイヤルホテル小倉



損害保険・医療保険・がん保険

の総合保険代理店

安心の発信基地

大村保険サービス

代表 大村 実良

(昭和33年商学部卒)

652-0897

神戸市兵庫区駅南通3丁目4-1-302

TEL 078-671-7318 FAX 078-671-8316

世界遺産熊野古道ウォーク

第11回高原霧の里から牛馬童子口まで 約8km

2月17日(水)17名の参加者で11回目の熊野古道ウォーク、高原霧の里から牛馬童子口まで歩いた。滝尻王子前の熊野古道館で語り部の山本さん(女性)と合流し、出発点の高原霧の里へと向かう。国道から細い道路へ入って行くと語り部さんが「エーッ、大丈夫？」とそして「小型バスだから」と。大型バスだと通れなくて歩いて案内する事もあるみたいだ。

今回は出発点の高原霧の里で(高原霧の里で段々畑眺望)先に昼食をとってからウォーク開始ということで早目(11時半)の昼食となる。

ここはかなりの高地で、段々畑を見下ろすと水車なども廻っておりまさに田舎の原風景と言ったところ。イーデス・ハンソンさんもこの辺りにお住まいとか。

12時過ぎに出発し、旧旅籠街の通りを過ぎ、道標8番(500m毎にあり今回は24番まで歩く)を過ぎてすぐに右の写真の自転車の車輪に空き缶を取り付けた水車を見つけた。



やがて庚申さんと大日如来さんを祀った祠の前を通ると「ここより近露王子まで民家が無く連絡の方法は無い」との警告板を横目に見やりながら、石畳の坂道を上り山の中に入っていく。

木漏れ日の杉木立の中を暫く歩き、やがて落ち葉を敷き詰めた道と変わり古道らしい雰囲気を感じながら歩く。道標11番を過ぎると大門王子跡だ。この付近に熊野本宮の大鳥居があったか

らだと。15分前に標高506mという表示を見たので600m(大門王子の石碑)近いのかも。そういえば語り部さんは今日は一番高いところで700m位あると言っていた。

山中を下ったり登ったりしながら道標13番をすぎ、ちょっとした広場に出て来た。かつては茶店などもあったという「十丈王子跡」である。太陽光パネルを取り付けた公衆電話ボックスがあり、小(公衆電話と休憩所)さな休憩所があり、太陽光発電装置を備えた水洗便所もある。ここで長めの休憩をとり再び上り坂に挑む。小判を啜えたまま倒れた巡礼を弔って祀られた「小判地藏」、力が強く頓智に長けた伝説上の有名人悪四郎の屋敷跡、修験者が三体の月を見て神変不可思議な法力を得たという三体月伝説の地などを

を経て、「大坂本王子跡」に到着。大坂(逢坂峠)の麓に

大坂本王子跡

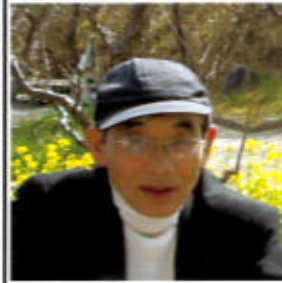
にあるところから、この王子社名が付いたらしいと。右の石碑には大阪本と左の説明板に大坂本となっている。どちらが本当なのか？ どちらでもよいのか？ ここには滝尻王子や大門王子にもあった石造の笠塔婆があり、上部の笠形が一番きれいに残っていた。



エッセー

— 古典に学ぶ —

浜田勝義 (44米英)



祇園精舎の鐘の声
諸行無常の響きあり
沙羅双樹の花の色
盛者必衰の理をあらわす
おごれる人も久しからず
ただ春の夢のごとし
猛き者も遂にはほろびぬ
ひとえに風の前の塵に同じ

これはご存じのように、平家一門の栄華と滅亡を書いた『平家物語』の冒頭である。誰もが中学校や高等学校の国語の時間に暗唱したのを思い出すであろう。

昨年は長期にわたって政権を担ってきた自民党が大敗し、民主党政権に変わった。自民党政権が崩壊した原因は色々考えられる。リーダーの不在、相次ぐ大臣の失言、不況による経済の行き詰まり、貧富の差の拡大等々。

これまで何度も弱いチームを強いチームに再生した楽天の前監督野村克也氏は、自民党大会に招かれて、「みなさんは過去に於いて勝った時にあまり反省しなかったのではないかと。全く、巨人(ジャイアンツ)と同じだったのではないかと……」とアドバイスしたという。再建はいかに？

上掲の平家物語は、さらに秦(シ)朝の趙高、漢朝の王莽(ワウ) 梁(リョウ)朝の朱異(シュイ) 唐朝の安祿山の实例を挙げ、これらの者は皆、自分たちの旧(ト)の主君や前代の皇帝の政治にも従順でなく、楽しみのかぎり世の中が乱れるということも気づかず、人民の深く苦しみを嘆いていることをも知らなかったため、久しくその地位を保つこともなくして滅亡してしまっ、と語っている。

そして私たちが日々仕事や生活を顧みて、「〇〇も遂にはほろびぬ」とならないようにしたい。

熊野古道ウォーク — つづき —

大坂本王子からゴール地点まで1キロ少々の下り坂だ。ゴールの牛馬童子口はバス停で、道の駅であり、土産物の販売店などがあり、草もちがおいしいとか。帰りのバスの車窓から南部辺りの梅林が満開となっているのが遠望できた。(牛馬童子口の土産物店)



**「三金会」「囲碁の会」会場ご案内
本館牡丹園**

神戸市中央区元町通1丁目11-20
電話 078-332-4588 FAX 078-392-3020

JR元町駅東口海側下車、南へ(大丸方面へ)徒歩1

「三金会」

毎月第三金曜日 午後6時～
会費:3,500円(男性)
2,000円(女性)

「囲碁の会」

毎月第三金曜日 午後3時～
参加費:無料、ドリンク/500円



幕末/明治に活躍した上郡町出身の偉人 大鳥圭介の生誕地を訪ねるハイク



2月21日(日)好天に恵まれ、赤松初夫氏(40米英)が町会議員として務める上郡町とJR上郡駅利用促進協議会が主催する上述のハイキングに参加した。

参加者は二宮、元田、名越及び地元赤松の4名。

事前に赤松氏から案内のあった時間表に基づいて、

(二宮、赤松、名越、元田)上郡駅で智頭線に乗り換え次の若縄駅で下車すると、赤松氏が3人分の弁当と飲物を用意して出迎えてくれた。こんな時でないかと智頭線を利用することはないかも。智頭線は1994年12月開業で、数少ない黒字経営の第三セクター鉄道であり山陽本線JR上郡駅と因美線智頭駅を結んでいる。

駅前広場で参加受付し、346番の番号札を貰う。新聞記事では、先着200名…とあったがどうやら400名近い参加者のようだ。

11時過ぎ出発式の後そろそろと長い行列を形成して、目的地大鳥圭介生誕地、上郡町岩木丙石戸地区までの約5.5kmのハイキングが始まった。



(番号札下げて出発)

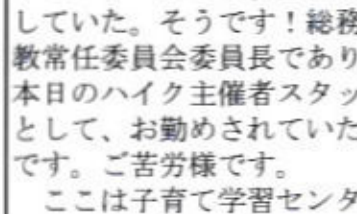
まずは智頭線に沿って南へ(上郡駅方面)向かって1キロ半、右折して岩木川沿いに、車もあまり通らない田園地帯を春の日差しを浴びながらのんびりと歩き3km地点を過ぎた辺りで、本日のスタンプラリー押印場所、西山翁頌徳碑(右下写真)に着いた。幕末/明治に当地区の公共事業に尽力した人である。

スタンプラリー帳には5か所の押印場所とそれぞれに○×式のクイズが出題されていて1番は、鳳啓介の芸名は上郡町出身の偉人である「大鳥圭介」の生きざまに心酔してつけた、○か×かと。

そういえば三金会でこのハイクの話が出た時、誰かが「ポテチン」の鳳啓介か?と言っていた。因みに、鳳啓介は大阪出身だそうだ。

左の脇道に入った所に次のスタンプポイントの「極楽とんぼ館」(写真左)がある。大鳥圭介は養蚕業を上郡町内に広めたのはかつての養蚕場だったとのこと。やがて前方に横断幕が張られ、大勢の人で賑わっている広場が見え、その前では、赤松氏が腕章をつけて交通整理をしていた。そうです!総務文教常任委員会委員長であり、本日のハイク主催者スタッフとして、お勤めされていたのです。ご苦労様です。

ここは子育て学習センター



や岩木農業構造改善センターがあり、円心モロどん(モチヤケ入り手延べうどん)、けいすけまんじゅう(醤油まんじゅう)おしるこ、お茶その他上郡町特産品が販売されている。ここで昼食となり頂いたお弁当を広げる。

この広場に隣接して「大避(おたげ)神社」があり、スタンプポイントとなっている。

大避神社境内には御神木の「コヤスノキ」がある。トベラ科の常緑低木で雌雄異株。5月に黄色の花をつけ、

秋に球形の果実をつける。中国台湾にも分布するが、日本では西播地方に限られているそうで県の指定文化財となっている。

(写真左)大避神社を後にしてゴールを目指して歩く。道路脇には大鳥圭介生誕地を示す幟が彼方此方に立てられており、ゴールの生誕地が近い事を示している。(写真右)

やがて幟が何本もはためいているのがみえてきた。ここでも赤松議員は参加者誘導に奮闘中であつた。ゴール受付で、

スタンプ帳を提示して記念品を受け取り、生誕地に建てられた「いきいき交流ふるさと館」等を見学。大鳥圭介生家(写真下)は台風被害のため2008年4月に解体されたとのことで、写真が掲示されていた。復元できなかったのかなあ!

ここには「ふれあい喫茶店」がオープンしたばかりで、大鳥圭介に関わる色々な資料を展示している。大阪適塾に記録された名簿では、「播磨赤穂郡細念村大鳥直輔倅大鳥圭介」と記録されており、当時はこの辺りは細念村と呼ばれていたことが判る。

生誕地での見学を終えて、来た道に戻り若縄駅へと向かう。途中、往路でオミットした「宝篋印塔」に立ち寄る。県指定文化財で、基壇に刻まれた銘文から明徳元年、1390年、播磨国赤松上村の一結衆という信仰集団によって造られたものと。

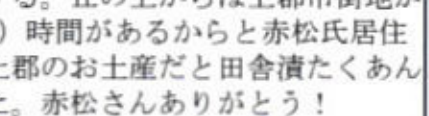
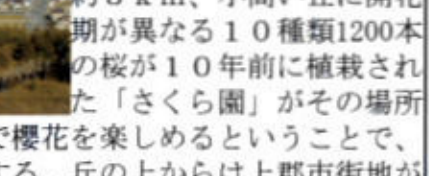
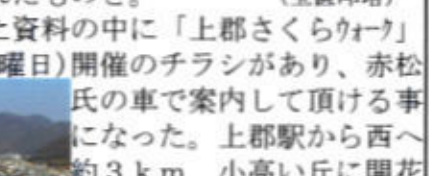
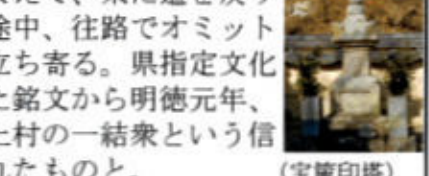
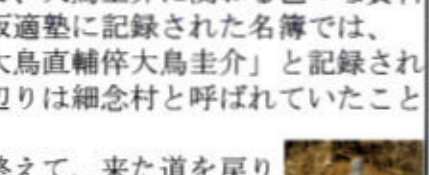
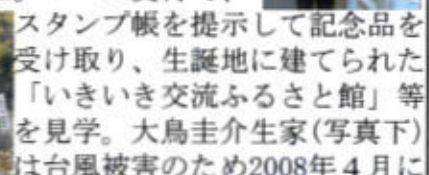
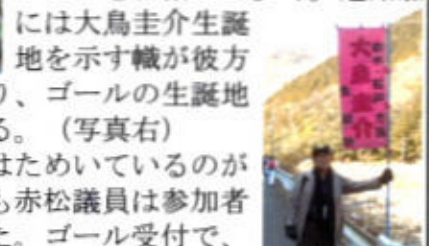
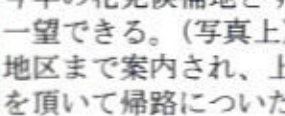
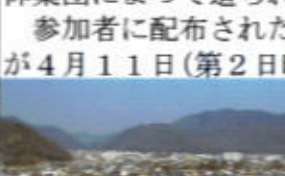
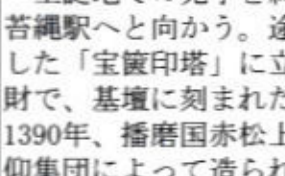
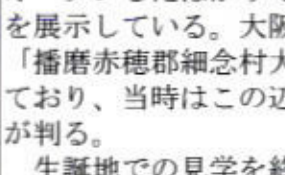
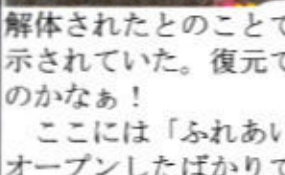
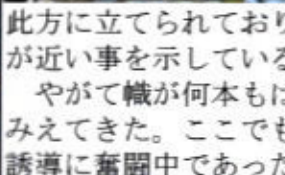
参加者に配布された資料の中に「上郡さくら園」が4月11日(第2日曜日)開催のチラシがあり、赤松氏の車で案内して頂ける事になった。上郡駅から西へ約3km、小高い丘に開花期が異なる10種類1200本の桜が10年前に植栽された「さくら園」がその場所である。4月下旬まで桜を楽しめるということで、今年の花見候補地とする。丘の上からは上郡市街地が一望できる。(写真上)時間があるからと赤松氏居住地区まで案内され、上郡のお土産だと田舎漬たくあんを頂いて帰路についた。赤松さんありがとう!

生誕地での見学を終えて、来た道に戻り若縄駅へと向かう。途中、往路でオミットした「宝篋印塔」に立ち寄る。県指定文化財で、基壇に刻まれた銘文から明徳元年、1390年、播磨国赤松上村の一結衆という信仰集団によって造られたものと。

参加者に配布された資料の中に「上郡さくら園」が4月11日(第2日曜日)開催のチラシがあり、赤松氏の車で案内して頂ける事になった。上郡駅から西へ約3km、小高い丘に開花期が異なる10種類1200本の桜が10年前に植栽された「さくら園」がその場所である。4月下旬まで桜を楽しめるということで、今年の花見候補地とする。丘の上からは上郡市街地が一望できる。(写真上)時間があるからと赤松氏居住地区まで案内され、上郡のお土産だと田舎漬たくあんを頂いて帰路についた。赤松さんありがとう!



(昼食を終え一服)



(宝篋印塔)

今年も2月は金剛山登山 初めて雪の無い金剛山を経験

平成14年2月10日二宮氏に誘われて、吉本氏と3人で登ったのが、金剛山登山の最初である。この時は、「歩こう会」は厳寒期(1月・2月)及び酷暑期(8月)は例会なしとしていたので、番外編の様な形で二宮氏以外は初体験の2名が参加したのだった。



(雪の無い金剛山頂、1125m(国見城址)で記念撮影)

それ以来、15年(六甲山登山)19年(不参加)を除き、金剛山登山に参加するのは今回で7回目となるが、頂上まで積雪が見られなかったのは初めてである。

南海電車なんば駅に午前8時集合。藤田博保(35商)平間正昭(37商)名越英昭(37米英)二宮慶治郎(38米英)の同窓生4名、ゲストの2家族8名は先行して金剛山に向ったのこと。

登山口バス停下車し、登山道入り口にさしかかっても全く積雪の気配なし。

程なく左手にお地藏さんを発見、昨年の登山の時に初めて気づいたのだが、それぞれに人生訓ともいうべ(いよいよ登山開始)き文言が墨書された木板が添えてある。後で判ったのだが、これらは13佛の石仏で麓から順番に1~13番まで設置されている。この石仏は4番の普賢菩薩像である。1番~3番は見落とすたようだ。



(4番普賢菩薩像)

— 夫婦 —

つらい時には 愚痴をこぼし
苦しい時には 弱音を吐き
夫婦互いに 助け合い
人間らしく 生きていきたい
立派な人生をいきることより
人間らしい人生をいきることを
考えていきたい

5~13番はきっちりカメラに収めたが、その全てをここで披露するには紙面が足りないので、又の機会とさせていただきます。

5番の地藏菩薩像がある辺りに千早城址への道標がある。今年は雪がなく迂回するチャンスと右折して急坂を上り、千早城址へ。



(千早神社)

「史蹟千早城址」の石碑があり、本丸跡には、楠木正成卿、楠木正行朝臣、久子刀自(正成夫人)を御祭神とする千早神社がある。

登山道に戻り、平間氏と筆者はいつもの通りマイペースで、藤田・二宮両氏は山頂で湯沸かし準備のため先行。今回は、4合目、5合目などの標示板に気づく。前からあったのだろうか？

やがて中間点の「のろし台跡」にやってきた。ここから山頂まで1400mとある。ということは登山口からここまでの1400mを1時間強を要したことになる。

6合目を過ぎると、次は6.5合目と小刻み表示になってきた。やっぱりこのような表示板は去年は見かけなかった。少しずつ整備されているんだ。

やっと山頂に到着したのは結局1時半過ぎ、2時間20分を要した。山頂まで全く雪は無く持参のアイゼンを使う機会がなかった。山頂では二宮会長が携帯



(食後に温かいコーヒーを)

コンロでお湯を沸かして待機、カップラーメンを取り出し昼食とする。持参の燗酒で体を温め、食後のコーヒーもあり、至福の時を過ごす。

先着したゲストの2家族も一緒に食事をしたのだが子供たちは折角持参したソリが使えず残念だったことだろう。山頂広場にかろうじて残されている「かまくら」の前で、記念写真を撮ったのが、僅かに冬山の痕跡を示すのみだ。



(かまくらの前で)

いつもの記念撮影の為金剛山頂へ行くと、なんとか樹氷が残っているところもあり、記念写真を撮る。(写真右)

帰りの道で、いつもは雪の為素通りしている転法輪寺前の行者堂、牛王、十三重塔等じっくりと見て歩いていると



皆がなにかガヤガヤと騒いでいる。見ると立像の「あご」に「ツララ」がぶら下がっていたのだ。(写真左参照)

夫婦杉、宝剣塔、宝篋印塔、福石、仁王杉、出迎え不動明王等々、いつもよりは少し丹念に見ながら下山してゆき、

ロープウェイ金剛山駅近くのピクニック広場で休息をとる。そこから伏見峠を経て、コンクリート舗装の急な下り坂の念仏坂を一気に…と思ったが膝が痛くなり、そろりそろりやっとの思いで何とか無事下山した。



(夫婦杉)

投稿大歓迎

皆様のご投稿を待っています
旅行記、随筆、自分史、短歌、俳句、川柳など
あるいは本紙に対する御意見・御感想、何でもOK

広告大歓迎

掲載料:1/10頁、1回500円
お申し込みは6回分3,000円で御願います